

## WORD で長文を書いてみよう

人に読ませる文章をあまり書いたことがない人が、しばしば落ちいる誤りは、文章をどこで区切るのかわからないので、とにかくダラダラしまりがいい文章を書いてしまうという失敗である。

その解決は意外と簡単で、とにかくいま書いている文章の途中でいいから句読点「。」を付けて、強引にその文章を終わりにしてしまうことである。次の行の頭を一段下げて、新しい段落で、次に思い付いた文章を書き始めることである。頭を一字下げた形で新しい文章を始めることを「段落を付ける」という。パソコンのワープロで「Enter」キーを押して改行することである。

接続詞の「・・・だが、」とか「でも」や「しかし」などはできるだけ用いないこと。文章が長くなることと、次に何を書こうか迷い、そこで筆が止まってしまう。

季節の変わり目の記事で、「新緑の美しい季節となったが、」と書くと、さてその次になにか気のきいたことが書きたくなる。ここは「新緑の美しい季節になりました。」と区切る。

文章を書きなれた人は、この段落の使い方が上手だ。文章というのは、しょっちゅう続かなくなるのが当たり前で、続かなくなったら新しい段落を立てて新しいことを書き始めればよい。頭の切り替えができる人は、いい文章、長い文章が書ける。

パソコンで文章を作る場合は、思いついた文章をメモにして段落を区切って文章を打ち込んでおく。数行の空白の段落を入れておけば、後からそのメモを見つけやすく、そのメモに言葉を追加して長い文章ができ上がる。その段落の文章をコピーして本文の所定のところ挿入することができる。

段落というのは、パソコン上でとても扱いやすい文章を組み立てて完成していく部品パーツなのである。

参考図書:立花隆著『自分史の書き方』

### パソコンで 自分史を書いてみよう



久保 裕  
特定非営利法人 コミュニティNET ひたち  
一般社団法人自分史活用推進協議会  
自分史アドバイザー

Cnet 製本工場のテキスト  
「第7章 長く文章を書き続けるコツ」  
73 ページを参照